

実践報告

コンテンツを重視した教材による 英語リーディング指導の効果

事例研究を題材としたテキストに対する
学生の評価から

山梨県立大学 杉田 由仁

はじめに

- ESP: English for Specific Purposes
「特定の目的のための英語」
- 将来、病院などの医療系の職場で看護師
や保健師として活躍することを期待されて
いる看護学生の英語学習のニーズ

↓

「看護英語 (English for Nursing)」の指導

内容中心教授法 (Content-based instruction)

- 学習者が興味を持つ、特定のテーマを中心に内容を構成する「テーマ中心プログラム」
- 学習者にとって、既習の題材を英語の授業を通して学ぶ「内容強化プログラム」
- 目標言語により、学習者にとっての専門知識 (authentic content material) を学んでいることを学習者が自覚した時、学習への動機付けが高まる (Gaffield-Vile 1996)

教材と授業展開の概要

UNIT 01

Risk for Injury: How to Maintain Safety

安全な生活環境

Case Study 1 Mr. Suzuki



Pre-reading Activity

1. risk / 2. vertebra / 3. manual / 4. posture / 5. reading / 6. health / 7. copy / 8. reading glasses / 9. wheelchair / 10. ability

Reading for Comprehension

Case Study 1 Mr. Suzuki (p. 43) (100)

Haruo Suzuki is a 72-year-old man who worked for a Japanese company for 40 years and he is now retired. Unfortunately, he has lived some in a successful retirement since his wife died six months ago. He can take care of himself but has had arthritis for about ten years and recently has had decreased visual acuity.

Keiko Osumura is a public health nurse. She is conducting screening tests and providing health promotion education. She is now working with the people of the apartment building where Mr. Suzuki lives. When she visits Mr. Suzuki's apartment, she finds that the lighting is poor and the room is a mess. She talks to inquiry about his health. He says that he has trouble reading the newspaper with reading glasses and sometimes uses a loupe with the glasses. He has not had a new pair of glasses for three years. When he tries to turn on the light in the room, he gropes for the light switch. Keiko asks him to stand and walk with her to the kitchen. He is able to stand with difficulty and has an unsteady gait.

(158 words)

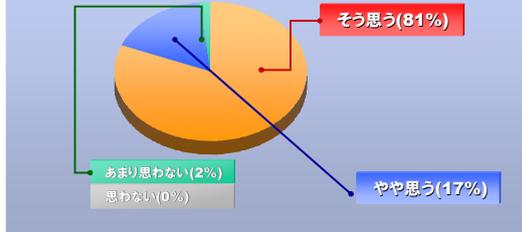
Nursing Diagnosis:
Risk for Injury related to altered mobility and decreased visual acuity

Reading Time: _____ seconds

notes: 読後、読後カードを記入すること。 loupe: 拡大鏡、読字鏡
require: 必要、必要とする

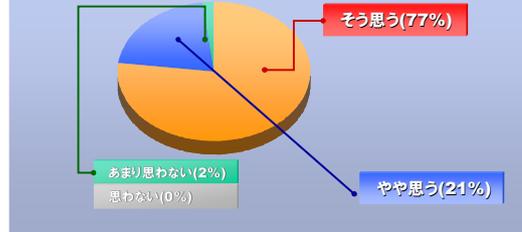
授業アンケートの結果 (1)

Q. 看護の事例研究は興味を持てる題材か



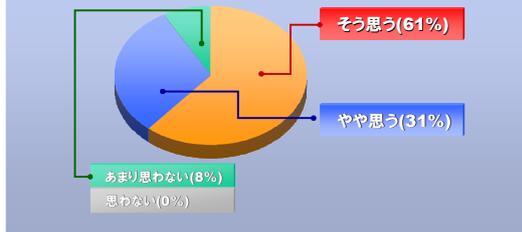
授業アンケートの結果 (2)

Q. 看護過程に沿った教材配列は適切か



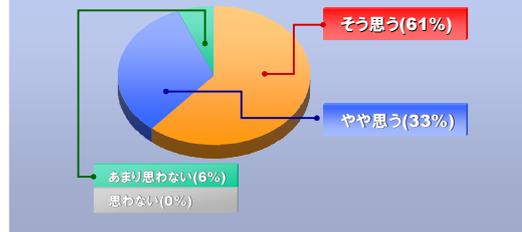
授業アンケートの結果 (3)

Q. 言語活動や練習に興味を持てたか



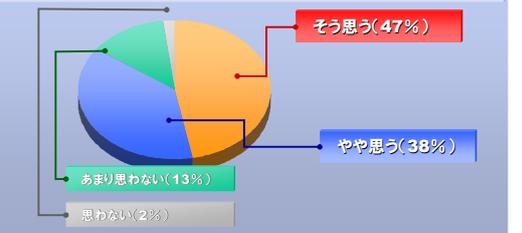
授業アンケートの結果 (4)

Q. 看護学生の興味・関心に合う教材か



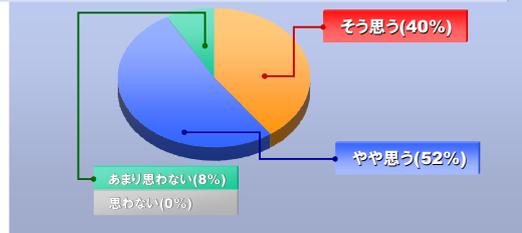
授業アンケートの結果 (5)

Q. テキストの英語レベルは適切か



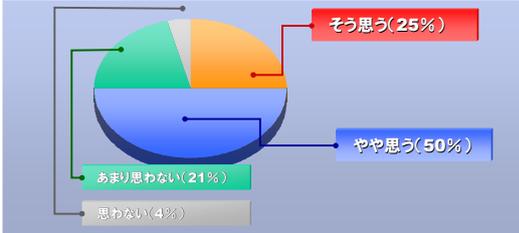
授業アンケートの結果 (6)

Q. 速読用教材として適しているか



授業アンケートの結果 (7)

Q. 速読力を向上させることができたか



授業アンケート(自由記述)の結果 「よいと思う理由」

- 各ユニットの本文や練習などの英文のレベルが合っていた (20)。
- 看護事例を題材とした内容だったので、わかりやすい (19)。
- 看護過程にしたがって、段階的に読み進めるので取り組みやすい (17)。
- 英語の学習を通して、看護の専門知識を学ぶことができる (7)。

授業アンケート(自由記述)の結果 「よくないと思う理由」

- 英文が易しすぎる (2)。
- 各ユニットの事例が看護計画通りにうまくいきすぎてしまう (1)。
- ユニットの内容により、時間が余ってしまうことがある (1)。
- ポスト・リーディングで行う活動が難しい (1)。

速読力に与える効果

読解力グループ別の速読力 (wpm) の変化

	読解力上位		読解力中位		読解力下位	
	事前	事後	事前	事後	事前	事後
人数	11	11	23	23	14	14
平均	68.5	74.2	60.8	83.6	57.0	65.6
S.D.	20.6	22.9	19.8	23.4	17.4	17.8

3×2の2要因分散分析の結果、事前・事後テストの主効果が有意で、読解能力とテストの交互作用が有意傾向

読解力に与える効果

読解力テストの結果 (Max=35)

	事前テスト (4月)	事後テスト (7月)
平均点	20.625	22.895
標準偏差	4.756	3.708
両側検定: $t(47) = 3.52^{**}$, $p < .01$		

考察とまとめ (1)

看護の事例研究を取り上げた内容重視の教材を使用したことにより、看護学生の英語の授業内容に対する興味が高まり、看護過程に沿って授業を展開したことにより、文の内容とのインタラクションが促進され、その結果として、内容に対する価値判断を伴ったアクティブな読解活動へと進ませる効果があると考えられる。

考察とまとめ (2)

コンテンツを重視した教材を使用して、速読練習を継続して行うことにより学習者の速読力および読解力にどのような変化が現れるかを調査した結果、速読練習は理解度を伴った速読力を向上させ、学習者の読解力そのものを改善する上でも効果があることが確認された。

参考文献

- Briton, D.M. & Snow, M.A. & Wesche, M.B. (1989). *Content-Based Second Language Instruction*. Newbury House.
- Gaffield-Vile, N. (1996). Content-Based Second Language Instruction at Tertiary Level. *ELT Journal*, Vol. 50/2.
- Kasper, L.F. (1997). The Impact of Content Based Instructional Programs on the Academic Progress of ESL Students. *English for Specific Purposes*, 16.

参考文献

- 杉田由仁. (2002). 「大学生を対象とした速読指導の効果」『山梨大学教育人間科学部紀要』第4巻1号. 128-135.
- 杉田由仁. (2006). 「コンテンツを重視した教材による英語リーディング指導の効果」『山梨県立大学看護学部紀要』第8巻1号. 27-43.
- 杉田由仁 & R. キャラカー. (2006). Nursing Case Studies『事例で学ぶ看護英語』成美堂.